

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●蛭名正義騎手がJRA通算2万1000回騎乗を達成

10月5日(土)の4回東京1日・第5レースでフェデネージュに騎乗した蛭名正義騎手(美浦・フリー)は、この騎乗でJRA通算2万1000回騎乗を達成しました。武豊騎手に続き史上2人目・現役2人目となる記録です。

●岩田康誠騎手がJRA通算1万3000回騎乗を達成

10月5日(土)の4回京都1日・第11レースとして行われた長岡京Sでアドマイヤキズナに騎乗した岩田康誠騎手(栗東・フリー)は、この騎乗で、史上20人目、現役では15人目となるJRA通算1万3000回騎乗を達成しました。

●藤田菜七子騎手が女性騎手最多となる1日4勝を達成

10月5日(土)の3回新潟1日、藤田菜七子騎手(美浦・根本康広厩舎)は、第5レースおよび第7～第9レースで勝利して1日4勝を達成しました。これはリサ・オールプレス騎手(旧姓リサ・マンビー時含む)が2度、藤田菜七子騎手自身が7度達成している1日2勝を抜き、女性騎手によるJRA1日最多記録となります。

●伊藤圭三調教師がJRA通算400勝を達成

10月5日(土)の3回新潟1日・第5レースではクリスタルアワードが1着となり、同馬を管理する伊藤圭三調教師(美浦)は、現役39人目となるJRA通算400勝(延べ5907頭目)を達成しました。

●萩原清調教師がJRA通算600勝を達成

10月6日(日)の4回東京2日・第11レースとして行われた毎日王冠(GII)ではダノンキングリーが1着となり、同馬を管理する萩原清調教師(美浦)は、史上93人目、現役では15人目となるJRA通算600勝(延べ4856頭目)を達成しました。

●ディーブインパクト産駒が史上最速で2000勝を達成

10月6日(日)に行われた毎日王冠(GII)ではダノンキングリーが1着となり、ディーブインパクト産駒のJRA通算勝利数が2000勝となりました。これはサンデーサイレンス産駒に次ぐJRA史上2例目の記録で、産駒初出走の日から数えて9年3か月17日での2000勝達成は、サンデーサイレンス産駒の10年4か月7日を上回る史上最速での達成となります。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●地元の伏兵コーラルツッキーがエーデルワイス賞(門別)に優勝

エーデルワイス賞(JpnIII、2歳牝馬、10月10日、門別、1200^米)は、7番手前後から差を詰めた7番人気の北海道所属馬コーラルツッキー(服部茂史騎手、父シニスターミニスター)が、先に抜け出した2番人気のアザワク(北海道)をゴール前で差し切りました。ニシノミンクスは4着、1番人気のプリモジョーカー(北海道)は5着、キラットダイヤは10着、3番人気のウィーンソナタは12着、デビルスダンサーは14着でした。

●ダービーグランプリ(盛岡)は人気のリンノレジェンド(北海道)

ダービーグランプリ(10月6日、盛岡、2000^米)は、逃げた北海道からの遠征馬リンノレジェンド(牡、父トビーズコーナー)が後続を5馬身引き離し、単勝1.3倍の支持に応えています。

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド浦和の結果

2019ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド浦和は10月9日に行われ、第1戦は小林凌大騎手(美浦)、第2戦は山田敬士騎手(美浦)が制しています。

●ミステリーベルンがフローラルC制覇【各地の主要2歳重賞】

フローラルC(9月19日、門別、1600^米、牝馬)は、1番人気のミステリーベルン(父ニホンピロアワーズ)が5番手前後から残り50^米で差し切りました。イノセントC(9月25日、門別、1200^米)は、2番手から4コーナー手前で抜け出した6番人気のヘイセイメジャー(牡、父マジェスティックウォリアー)がそのまま押し切っています。

●ゴールドドリームが登場、10月14日の南部杯(盛岡)

マイルチャンピオンシップ南部杯(JpnI、10月14日、盛岡、1600^米)は、GI・JpnI5勝馬ゴールドドリームが中心、以下ロンドンタウン、アルクトス、サンライズノヴァ、ミツバ、モジアナフレイバー(大井)、ノボバカラ、オールブラッシュの順に有力視されます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1凱旋門賞～ヴァルトガイストがエネイブルの3連覇阻む

G1凱旋門賞(3歳上牡牝、芝2400^米)が10月6日にフランスのパリロンシャン競馬場で行われ、地元フランスのヴァルトガイスト(牡5歳、父ガリレオ)が中団待機から直線で鋭く伸びて優勝しました。史上初の3連覇を狙ったエネイブルは残り400^米を切った辺りで先頭に躍り出ましたが、残り50^米でヴァルトガイストに差されて1馬身³/₄差の2着。3頭が参戦した日本調教馬はキセキの7着が最高着順で、プラストワンピースは11着、フィエルマンは12着に終わりました。勝ったヴァルトガイストはこれで2歳時のG1クリテリウムドサンクルー(芝2000^米)、4歳時のG1サンクルー大賞(芝2400^米)、そして今年のG1ガネー賞(芝2100^米)に続くG1・4勝目。鞍上のP.ブドー騎手は凱旋門賞初制覇。管理するA.ファール調教師は自身の持つ最多勝利記録を更新する8勝目(今年のほかに1987年トランポリノ、1992年スーポティカ、1994年カーネギー、1997年パントレセブル、1998年サガミックス、2005年ハリケーンラン、2006年レイルリンクで優勝)となりました。